

○達成状況を個人の端末やフロア内の大型提示装置で常に他者参照できるようにしたことで、種目の場所や担当者が違っていても、個々の達成状況やめあてに合わせた支援(運動の助言・励まし等)が適切なタイミングで行えるようになり、児童は各種目の運動に、より積極的に挑戦するようになった。